

## 献 辞

商学部は、2015（平成27）年度に、1905（明治38）年の現神田校舎の地での商科の創設から数えて商学教育110年、1965（昭和40）年の学部設置から数えて50周年を迎えました。また、2018（平成30）年は、会計教育100周年、会計学科50周年の節目の年となります。そして、2020年4月には発祥の地・神田神保町に移転する予定となっております。こうした商学部にとって大切な時期をともに支えてきてくださった、黒川保美教授、生西明夫教授の2先生が古希を迎えられ、2017年度をもって本学を定年退職されることとなりました。

黒川保美教授は、1970（昭和45）年3月、明治大学経営学部経営学科を卒業されました。その後、1972（昭和47）年4月、早稲田大学大学院商学研究科修士課程に入学、1974（昭和49）年3月に同課程修了後、1975（昭和50）年4月、慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程に進学されました。そして、1978（昭和53）年3月に同課程を単位取得退学され、同年4月、専修大学商学部助手に就任、1980（昭和55）年4月講師、1983年4月助教授、1990年4月教授に昇格されました。学内での役職は、二部学生部委員、二部学生部次長、図書館委員会委員、就職指導委員会委員、自己点検・評価委員会委員、教員資格審査委員会委員、国際交流センター委員会委員、購買会連絡協議会委員等に就かれるとともに、会計学研究所長を務められました。主要な担当科目としては、財務会計論、簿記論1、会計外国書講読などがあげられます。ご研究はフランスにおける社会関連会計を中心とする財務会計論分野で、『社会関連会計—フランスにおける社会関連会計論—』（森山書店）によって、1992年3月、慶應義塾大学より博士（商学）の学位を取得されたのをはじめとして、多数の著書、論文等の研究成果を公表されています。また日本会計研究学会の理事をはじめとして、国内外の多数の学会において役員を歴任され、わが国の会計研究を牽引する研究者のお一人といえます。

私事ながら、黒川先生は、私が専修大学に入職（1999年）して間もない右も左もわからない頃から気さくに話しかけてくださり、さまざまアドバイスくださったことがたいへん印象的で、今でも感謝しております。

生西明夫教授は、1971（昭和46）年3月、東京工業大学理学部を卒業され、同年4月、東京工業大学大学院理工学研究科修士課程応用物理学専攻に入学、1973（昭和48）年3月に同課程を修了されました。そして、1973（昭和48）年4月、東京工業大学理学部応用物理学科の助手に採用され、1986（昭和61）年3月まで勤められた後、同年4月、専修大学講師に就任され、1987（昭和62）年4月助教授、1996（平成8）年4月教授に昇格されました。学内での役職は、入試関連の業務に長くあたられていました。主要な担当科目としては、数理科学などがあげられます。ご研究は数学の中でも解析学の分野を専門とされ、1986年3月、東京工業大学より理学博士の学位を取得され、今日まで多数の著書、論文等の研究成果を公表されています。

私事ながら、生西先生はいつも若々しく颯爽と歩いてらっしゃる姿が印象的で、私にとって「数学者」のイメージそのものでした。

2018（平成30）年3月をもって定年退職される両先生は、専修大学商学部が設置された1965（昭和40）年

の翌年3月に高等学校を卒業され、それぞれ別々の道を歩みながら、縁あって商学部に合流されてきました。この先、商学部には神田キャンパスへ移転し、神田神保町の地においていかに根を張るかという大きな課題や試練が待ち受けていますが、どうかこれからも商学部を見守り続けていただき、私たちに叱咤激励してくださいませようお願い申し上げます。

2018年1月吉日

商学部長 渡辺 達朗